社說

財政當局者の迷信

（三十二）

○藩閥政府強大を極む

藩閥政府強大を極むるの原因を訪ぬるに全く松方の不才に帰せざるべからず民間に於て民力の疲弊を訴へ輿論の沸騰を見るに及ぶ政府は之を顧みるの暇なく一方に於ては海内に騒擾を生ずるの勢を見て之を鎮撫するの力なく他方に於ては財政の困難を来して内外の信用を失ひ国家の大事を誤まるの虞あるに至りて始めて其の不才を覚ることあるべしと雖も其の不才を覚ることは国家の不幸なり而して其の不才を覚ることは国家の不幸なりと雖も其の不才を覚ることは国家の不幸なりと雖も其の不才を覚ることは国家の不幸なりと雖も